

各位

会社名株式会社リボミック
 代表者名代表取締役社長中村義一
 (コード番号:4591東証グロース)
 問合せ先財務経理部長今井利哉
<https://www.ribomic.com/contact.php>

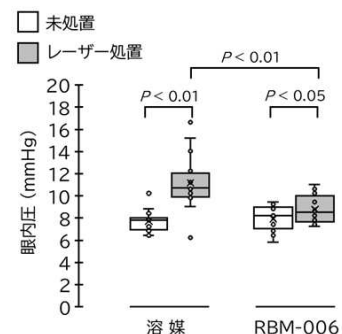
東京大学との共同研究における進捗および契約期間延長に関するお知らせ

株式会社リボミック(東京都港区、代表取締役社長 中村義一、以下「リボミック」と国立大学法人東京大学医学部眼科学教室(東京都文京区、研究代表者 教授 本庄恵、以下「東大眼科学教室」)は、アプタマーの眼科疾患に対する薬効を検討してまいりましたが、包括的な評価を通じて種々の研究成果が得られておりますので、本共同研究の今後の方針と併せてお知らせいたします。

当社は眼科疾患を臨床開発における重点領域の一つと定め、眼科疾患に関連する複数のアプタマーの医薬品開発に取り組んでおります。2024年7月より、研究開発促進のため、眼科疾患である緑内障や糖尿病網膜症などにおいて、基礎から臨床に至るまで多くの実績がある東大眼科学教室との共同研究契約を締結し、種々の薬効薬理試験を実施して参りました。本共同研究は複数のアプタマーを対象としておりますが、特に主な研究成果として当社開発品 RBM-006(オートタキシン阻害アプタマー)について、以下の薬効が非臨床モデルにおいて確認されました。

①眼圧上昇抑制(緑内障関連)

緑内障ではオートタキシンが高発現していることが知られております。本研究では、レーザー誘導緑内障モデルマウスにおいて、RBM-006 投与により眼圧上昇の有意な抑制を確認いたしました(右図)。



②血管新生抑制(網膜疾患関連)

加齢黄斑変性・糖尿病網膜症等の網膜関連疾患において、網膜における血管新生やそれに伴う炎症反応の亢進が起きることが知られております。本研究では、レーザー誘導 CNV モデルにおいて、病的血管新生の抑制を確認いたしました。

③抗炎症作用(作用機序の補強)

オートタキシンはリゾリン脂質の一種であるリゾホスファチジルコリン(LPC)を分解し、炎症性メデイエーターであるリゾホスファチジン酸(LPA)の産生酵素として機能すると考えられています。

本研究では、網膜色素上皮細胞に対して LPC を添加することにより炎症性サイトカインの産生が促進されることを見出し、RBM-006 が当該反応を抑制する炎症抑制作用を有することを確認いたしました。

これらの結果は、RBM-006 が複数の眼科疾患に横断的に有効である可能性を示すものであり、大規模市場（緑内障・加齢黄斑変性・糖尿病網膜症等）への複数適応展開戦略や、作用機序の独自性に基づく差別化ポジションの確立、ならびに将来的なライセンスおよびパートナーリング機会の拡大といった観点で、当社のパイプライン価値向上に資する重要な進展と認識しております。なお共同研究期間は 2026 年 7 月までを予定しておりましたが、これらの研究成果を取り纏めるため共同研究期間を延長することいたしました。

なお、本共同研究変更契約による共同研究費用の増額はなく、契約変更後の共同研究期間は 2027 年 3 月までの予定です。本件による 2027 年 3 月期への影響はございません。

以上